

幼稚園名	杉並区立下高井戸子供園		園長名	五十嵐美緒子
住所	杉並区下高井戸4-38-15		創立	1970年 幼稚園から転換 2010年
電話番号	03-3303-9485	FAX番号	03-3303-9492	
URL		最寄り駅	京王井の頭線 西永福駅	
2021年度年少クラス募集人数(実績) 短時間9名 長時間12名			定員数 短時間51名 長時間42名	
各学年のクラス数	年長 1クラス	年中 1クラス	年少 クラス	
送迎バス <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	駐車場 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	指定制服 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 一部あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	指定カバン <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
プレ(2歳児/満3歳児クラス または定期的に参加するもの) <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし		昼食(1週間あたりの回数) 弁当 1回 給食(<input checked="" type="checkbox"/> 自園調理 <input type="checkbox"/> 配食) 4回		
預かり保育 通常時/長期休暇中 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		補助活動(幼稚園内で実施する習い事) <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし		
卒園後に進学する主な小学校 高井戸第三小学校・高井戸東小学校・浜田山小学校・永福小学校 他				

■質問事項

幼稚園の考え方を知るための質問

○質問 1：園の教育方針や園児と接する時に大切にしていることを教えてください。

回答 1：

*自分で考えて行動する 自分も人も大切にする 心身ともに健やかな幼児の育成を目指しています

*遊びを中心とした生活の中で、子どもたちが仲間と共に遊び、共に育つ喜びと充実感を味わえるようにしています

*一人一人の幼児と向き合い、一人の人として関わり、つながりや広がりをもてるようにしながら、育ちを支えています。

*遊びの中の なぜ どうして を大切にし、共に考えながら、幼児一人一人の学びを支えています。

幼稚園の活動を知るための質問

質問 2：日々の活動内容について教えてください。

○質問 2-1：自由活動では園児たちはどのようなことをしていますか。他学年との交流はありますか。

回答 2-1：

自分たちで選んだ遊びをします。保育室や園庭の環境に、子どもたちに経験してほしいと計画した教材や用具、遊具等を構成し、その環境に自分から関わり、経験を重ねてほしいと願っています。環境には保育者も人的環境としてとらえています。ですから保育者も一緒に遊んだり、モデルになって動いたり、見守ったり、援助したりしながら、遊びが展開できるように工夫しています。

(自由活動という言葉の意味が共通理解できていないので、問いに答えられているかわかりません。申し訳ありません。)

○質問 2-2：一斉活動で外部講師の指導するものがあれば教えてください。

回答 2-2：

「元気タイム」という名前で月に 1 回程度講師を招いています。

楽しみながら体を動かして遊ぶ中で、自分の体を自分が思うように動かすことができるようになることを

目指しています。講師の先生も、指導の中で、保育者にわかりやすく、また、体の動きや指導のポイント等について指導していただいています。その内容を、日々の保育の中でも、遊びの中、環境の中に取り入れ、繰り返し経験できるように工夫しています。

○質問 2-3：日々の活動の中で、コロナ禍で影響があったものがあれば教えてください。

回答 2-3：

- * 密にならないように、遊びの場や生活の場を分けている
- * 園庭やホールの使用 * 給食を摂る部屋や午睡休息をとる部屋など
- * 身体接触の多い遊びは、極力減らしている。
- * おに遊びなども学級全体ではなく、2 グループに分けて取り組む。
- * 椅子の間隔をあけて座る
- * 食事中に話をしない
- * 保育者が一緒に食事をしない
- * 園庭開放 各学年 30 分ずつにした
- * 全員保育の開門時刻を 10 分早め、登園の時間を 20 分間とした（10 分→20 分）
- * 園全体や学級合同での行事の取りやめ
- * 保育参観や保育参加、懇談会の取りやめ、少人数化、短時間化
- * PTA 活動の縮小
- * 未就園児の会の中止

○質問 3：主に年長児だと思いますが、小学校入学に向けた準備として行うことはありますか。

（ひらがな、数字、時計など）

回答 3：

- * 小学校に向けた準備という考え方はしてません。一人一人の学びを大切にしています。
- * 学級の友達と皆で過ごす生活も大切にしていますので、そのことが小学校以降の学習や生活につながっていくととらえています。
- 年長になれば、* 椅子に座って話を聞く。* 自分のことを自分の言葉で話す。* 文字や数に関しては、遊

びの中で関心を示したときに、保育者と一緒に書いたり、読んだりする*自分が作ったりかいたりしたものに名前をかくなどの経験も取り入れています。*カルタやトランプなどの遊びを通して、文字や数字に触れる経験も持てるようにしています。

質問 4 : 行事について教えてください。

○質問 4-1 : 主な年間行事を教えてください。

回答 4-1 :

***入園式 修了式 *学期ごとの始業式・終業式 *保護者会 *保育参観**
***運動会 *下高劇場 *遠足・散歩 *避難訓練 *安全指導 *食育 *野菜の栽培**
***近隣の小学校や保育園などとの交流連携活動 など**

○質問 4-2 : 2020 年度はコロナ禍で行事の中止や変更が多かったと思います。主な年間行事の中で、平常時に戻るまで中止したり内容を変更する予定のものはありますか。

回答 4-2 :

4-1 の行事は、すべてコロナ対応の計画を練り直して実施しています。平常時に戻った際に、以前と同じ形に戻すというより、行事の意味やねらい、幼児に経験させたい内容を踏まえて、常に計画を見直しています。

幼稚園と家庭とのかかわりを知るための質問

○質問 5-1 : 保護者会や委員会活動など、行事以外で保護者が幼稚園に足を運ぶ機会はどのくらいありますか。

回答 5-1 :

保護者会は、学期に 1 回程度。個人面談・保育参観は年に 2 回程度を計画しています。

委員会活動という名称での活動はありません。

PTA 活動は、全体運営をする役員、学級や広報といった委員、係など、一人一役を担ってくださって皆さんで進めてくださっています。

定例の役員会は、月 1 回です。それ以外は、その都度必要に応じて開催するので、一律では回答が難しいです。

○質問 5-2 : 行事以外の普段の日の保育参観は可能ですか。(ある場合は頻度も)

回答 5-2 :

希望があれば、日程調整をして随時受け付けています。なるべく短時間での対応をお願いしています。

○質問 5-3 : 父母会やクラブ活動など、保護者同士の交流を深めるために行っていることがあれば教えてください。

回答 5-3 :

現在は、この状況下ですで行っていません。

一昨年度までは、学級の懇親会を PTA 活動の一環として開催していただいていたました。

○質問 5-4 : 上記活動の中で、コロナ禍で影響があったものがあれば教えてください。

回答 5-4 :

PTA 活動全般に縮小していますので、学級の懇親会も中止していただいています。

バザーや親子行事の観劇会も、開催方法を検討しています。

■ 考査に向けて心配な保護者へ差し支えない範囲で教えてください

○質問 6 : 幼稚園説明会、未就園児向けの催しなど、入園を検討している保護者と子どもが参加できる行事はありますか?(あれば内容も)

回答 6 :

子供園説明会を計画中ですが、この状況下ですので、時期は未定です。

未就園児の会も緊急事態宣言下は、実施していません。

○質問 7 : 定員を越えた場合の選考方法を教えてください。

回答 7 :

区役所での抽選

■最後に

○質問 8：入園前後の子どもへの接し方について、保護者の方へアドバイスをお願いします。

回答 8：

*お父さん、お母さんはあなたのことが、大切に大好きということが、子どもたちにも実感できるようにしてあげてほしいと願っています。小さいときは、歩いただけで「すごい」「かわいい」と言ってくれていたのに、だんだん大人の要求が高くなり、認めてもらえないということは、子どもにとっては悲しいことです。自分のことは自分でできるようになることは大切ですから、成長を期待して〇〇ができるように願うのは親心です。ですが、「できた時は認める」「できなかったときは認めてもらえない」では、心がくじけてしまいます。大切にしてほしいことは「やろう」とする気持ちやその姿勢です。「できたね」と一緒に喜ぶことも大切です。そして、できなかった時こそ、「やりたかったのね」「次もまたやってみよう」「きっとできるようになるよ」と伝えてほしいと願っています。

そうして育てられた子は、自分は大切にされていると感ずることが出来ます。

そして、自分のことも人のことも大切にする人に育っていきます。